

産 業 振 興 分 科 会

2007年2月26日

金 枝 右 子	佐 藤 弓 子	花 田 静 子
金 谷 貞 夫	佐 藤 竜一郎	三尾谷 文 子
佐 藤 要	津 谷 好 人	

目次

I. 提言の全体像

1. 分科会の総括（提言に当たっての考え方）

2. 本市の重点課題に関する認識

3. 重点課題解決に向けた目標（重点目標）

4. 施策・事業の柱

5. 事業内容

6. 評価指標

7. 市民の役割

II. 施策体系・施策事業内容詳細

参考 施策・事業体系

【参考】

重点課題・SWOT分析結果

I . 提言の全体像

1. 分科会の総括(提言に当たっての基本的考え方)

宇都宮市の産業振興分野における重点課題

宇都宮市の 産業振興分野 における 重点課題

①安全・安心な食品供給基地の整備

- ・健康食品ニーズの高まり、食の安全ニーズの高まり、外国産食品との競争の激化への対応(差別化)が必要になっている
- ・宇都宮市には一次産業基盤がフルラインで整っているため強みを生かせる

②新しい観光業の創出

- ・優良な観光資源を持っている(おいしい水、豊かな緑・自然、大谷石等)が活用されていない
- ・癒しが求められる社会においてそれらの資源を活用できる

③起業家精神が欠如している現状を打破し、ベンチャー企業の育成を図る

- ・既存産業が成熟化する中で、新しい宇都宮市を牽引するニュービジネスが期待されている
- ・現状では、産業教育が十分でないため企業家精神が市の若者に育っていない

④若年労働力不足時代への対応

- ・少子高齢化、ニートの増加等により若年労働力が不足すると考えられるため、若年労働力を確保育成する必要がある

⑤中心市街地空洞化への対応

- ・若者のスポット喪失や高い地価、駐車場不足や郊外への大規模商業施設の立地等により中心市街地が空洞化しているが、市民からの中心市街地活性化ニーズは強く、取り組むべき

2. 本市の重点課題に対する認識

宇都宮市の産業振興分野における重点課題

重点課題	背景・理由	やるべきこと
安全・安心な食品供給基地の整備	●健康食品ニーズの高まり、食の安全ニーズの高まり、外国産食品との競争の激化への対応(差別化)が必要になっている ●宇都宮市には一次産業基盤がフルラインで整っているため強みを生かせる	●食育の推進、学校給食の見直し(地元食材の活用、地産地消の推進)
新しい観光業の創出	●優良な観光資源を持っている(おいしい水、豊かな緑・自然、大谷石等)が活用されていない ●癒しが求められる社会においてそれらの資源を活用できる	●歴史文化資源の再評価、観光業者のPRの工夫 ●大谷石までのアクセス改善(東京からの直結等) ●大谷周辺の資源のシナジー活用(ロマンチック村、グリーンツーリズム、ハングライダー等) ●道路・地域のネーミング改善
企業家精神が欠如している現状を打破し、ベンチャー企業の育成を図る	●既存産業が成熟化する中で、新しい宇都宮市を牽引するニュービジネスが期待されている ●現状では、産業教育が十分でないため企業家精神が市の若者に育っていない ●これらの現状を克服する必要がある	●産学連携事業の拡大 ●キャリア教育等の産業教育の充実 ●行政による起業家支援(インキュベーターとして)
若年労働力不足時代への対応	●少子高齢化、ニートの増加等により若年労働力が不足すると考えられるため、若年労働力を確保育成する必要がある	●外国人労働者の適切な活用 ●高齢者人材の活用 ●育児環境の整備 ●若者に魅力的な職場づくり
中心市街地空洞化への対応	●若者のスポット喪失や高い地価、駐車場不足や郊外への大規模商業施設の立地等により中心市街地が空洞化しているが、市民からの中心市街地活性化ニーズは強く、取組むべき	●医療施設・高齢者用マンションの誘致 ●魅力ある拠点づくり

3. 重点課題解決に向けた目標(重点目標)

重点課題に対応した5つの重点目標

5つの重点目標

【重点課題①】

安全・安心な食品供給基地の整備

①食品・産品の高付加価値化とバリューチェーンの地域統合

・現在、食産業のビジネスプロセスが分断され、個別業者レベルで主に市外に対してビジネス展開している。これに対して、対外的には付加価値の高い差別化された商品の開発を推進し、地域における生産・流通・販売の一連のビジネスプロセスを最適化・効率化する。

【重点課題②】

新しい観光業の創出

②地域の魅力再発見と強みと結びついたテーマ性を重視した観光コンテンツの発進

・宇都宮市における地域観光資源は、市民ですら十分に把握していない現状である。市民の手で観光資源の魅力を再発見・再発掘し、それらの中の強みの部分を生かしたテーマ性を重視した観光コンテンツを作成し、外部発進する。

【重点課題③】

起業家精神が欠如している現状を打破し、ベンチャー企業の育成を図る

③内発型の新産業創出を目指して市民に対して意識面の啓発、環境整備、実業化支援といった入り口から出口までのフルパッケージによる起業支援を行う

・宇都宮市では、従来から起業支援は行われてきたが、ターゲットや支援内容が限定的であるという問題点がみられた。このため、今後は意識啓発から実業化支援までのそれぞれの起業家の進展段階に応じた支援が求められ、フルパッケージによる起業支援が求められる。

【重点課題④】

若年労働力不足時代への対応

④若年者の意識啓発・職業能力向上と女性の労働市場進出の促進により労働力の維持確保を図る

・若年労働力が総量として減少していく中で、若年者のフリーター・ニート化が進み、益々生産性の高い労働力が不足すると考えられる。このため、若年者の意識向上・能力向上が求められる。また、若年者だけでなく、女性の労働市場への進出も求められる。

【重点課題⑤】

中心市街地空洞化への対応

⑤魅力ある拠点づくりとアクセス改善

・中心市街地への人の流れが無くなって久しいが、郊外へ流出した人・消費の流れを再度中心市街地に取り戻し、まちの活性化につなげるために、魅力ある拠点づくりと、拠点へのアクセス改善に取り組む

4. 5つの事業の柱

**5つの
事業の柱**

①安全・安心な地元食材を使った商品開発とその販売ルート開拓

②食・ツーリズム事業(観光と食との合体)

③起業のための環境整備

④宇都宮版ワークシェアリングの推進

⑤五感に訴えかける仕掛けづくり

4. 事業内容

①安全・安心な地元食材を使った商品開発とその販売ルート開拓

①対象

- 消費者グループ、匠（地域の匠）
- 農業者、消費者

②目的

- 安全・安心な産品開発を行う、産品開発において地域内外の市民、消費者のアイデア・創意工夫を活用する
- 消費者の安全・安心ニーズの高まりに対応して、生産者の顔の見える販売方法を構築する

③事業概要

- 市内外から安全・安心な地元食材を利用した産品アイデアを募集し、コンクールを実施する。優秀作品は実際に作成、販売することとする。
- 生産者の顔が見える販売方法
（生産物トレーサビリティシステムの構築）

④事業主体

- 市
- 農業団体

4. 事業内容

②食・ツーリズム事業(観光と食との合体)

①対象

- 商工団体
- 観光協会
- 地元商店街

②目的

- 餃子等の食に関する観光資源を活用した観光事業を推進する

③事業概要

- 食を中核的資源とした観光を推進する

④事業主体

- 市
- 商工関係団体

4. 事業内容

③起業のための環境整備

①対象

- 起業意欲のある人、起業をサポートする人
- 金融機関、エンジェル、ベンチャーキャピタル、大学・商工会

②目的

- 経済成長の維持のために、ベンチャースピリットをもった起業家の創出／個人の自己実現、喜びの醸成
- 起業希望者の経済支援／出資者の啓蒙、意識付け

③事業概要

- 起業コンテスト(エンジェルによるその場での支援決定)／気軽に相談できる相談窓口の設置
- インキュベータの仕組み構築／起業に詳しい人を雇用し、行政が出資し、専門家が投資の可否を判断／起業のアーリーステージにある起業家に対するコンサルの充実(技術、経理などのチェック)／起業家コンサルの設置(技術指導、管理指導、経理指導等)

④事業主体

- 市
- 商工会議所

5. 事業内容

④宇都宮版ワークシェアリングの推進

①対象

- 市内就労者

②目的

- 雇用機会の拡大
- 親が安心して働ける就業体制構築
- ワークライフバランスの確保

③事業概要

- 短時間正社員制度の認定と導入検討企業に対するノウハウ支援
- 割増賃金の引上げ(市内政労使合意)とノー残業企業表彰制度

④事業主体

- 事業主
- 市

5. 事業内容

⑤五感に訴えかける仕掛けづくり

①対象

- 市民
- 観光客

②目的

- 文化とゆとりをキーコンセプトとした五感に訴えかけるまちづくり
- 五感に訴えかけることにより、トータルの満足度を提供する

③事業概要

- 商店等のみではなく五感を満たす拠点の集中化（文化とゆとりを感じられる空間整備、歴史・芸術を感じられる拠点、食通をうならせる拠点の一極集中化。歩きながら五感を満たせるコンパクトな中心市街地形成）
- 中心市街地で販売する食品のトレーサビリティの推進
- 餃子に匹敵する食の主力商品の開発
- 子供も大人も「体験できる」仕掛けを作る
- 魅力あるまちづくりを考えるワーキングの設置（五感それぞれにワーキングを設置し、統合ワーキングも設置）

④事業主体

- 市
- 商店街
- 商工会議所

6. 成果指標

①重点目標に対する成果指標について以下を提案する。

●産業振興分科会の検討で出された重点目標別の指標案は以下の通りとなっている

【重点課題①】安全・安心な食品供給基地の整備

- ◇新みやげ品の(発掘)掘り起こし(みやげ品)登録制度)
- ◇新名物品の開拓
- ◇宇都宮発の新製品の製造度(オリジナル)
- ◇オリジナル商品の開発(デビュー)
- ◇差別化商品の開発数
- ◇食品製品の他の土地からは考えられないとびきりのヒット商品の開発
- ◇高付加価値の商品が適正なルートで流通、販売されているか
- ◇宇都宮市産農産物利用度
- ◇栃木県産農産物利用度
- ◇国内産農産物利用度
- ◇海外農産物利用度
- ◇生産面 安全安心な食品が生産されているか(トレーサビリティの徹底)
- 1.生産、流通、販売のビジネスプロセスが効率的に行なわれているか
- ◇安全安心な食品の流通ルートが確保されているか
- ◇安全安心な食品の販売方法が確立されているか(確認情報)
- ◇契約農家数(レストラン、スーパー等との)品目別栽培面積
- ◇宇都宮産農産物利用店数

【重点課題②】新しい観光業の創出

- ◇農業体験農家数 グリーンツーリズム
- ◇うつのみや城の来場者数
- ◇市民の利用リピート率
- ◇まず宇都宮の小学校、中学校において課外に観光散策を実行させ魅力を情報化させ広める
- ◇大谷への出店数
- ◇観光業者から利用度を調査(リピート率含)
- ◇マスメディアへの露出度
- ◇観光客満足度
- ◇宇都宮魅力度調査
- ◇市内の観光資源が有効に活用されているか(再発見・発掘)
- ◇観光資源が市民に認知されているか
- ◇観光資源を生かした産業が形成されているか(産業振興につながっているか)
- ◇産業振興と観光がつながって安全安心な食品**基地**になっているか
- ◇市内の観光資源を広くPRし、多くの誘客を行なっているか(観光客数)

6. 成果指標

①重点目標に対する成果指標について以下を提案する。

●産業振興分科会の検討で出された重点目標別の指標案は以下の通りとなっている

【重点課題③】起業家精神が欠如している現状を打破し、ベンチャー企業の育成を図る

- ◇地域の匠の発掘
- ◇空き店舗の利用者数
- ◇女性起業家の実態
- ◇上場社数
- ◇直接金融の増額
- ◇開業率
- ◇空き店舗増減
- ◇廃業率
- ◇支援相談数
- ◇起業、支援をうけて業を起こした起業家がどのくらいいるか
- ◇新たに産業として成り立っている企業がどのくらいあるか(新規参入)
- ◇コンテスト開催数
- ◇コンテストの開催回数、参加者
- ◇コンサル数
- ◇支援資金額

【重点課題④】若年労働力不足時代への対応

- ◇正確な外人労働者の実態とその支援策
- ◇外国人労働者の数を調査
- ◇ニート数把握
- ◇ニート数を調査(交番に依頼)
- ◇若年者の就業率
- ◇働き甲斐、生き甲斐を持つ若者の割合
- ◇若年層の将来への期待度(自分自身)
- ◇能力検定などの合格者数
- ◇子供のいる女性の労働力を確保する為、定年になった人でまだ働きたい人たちで結成する保育園の設立(現在保育園の不足)
- ◇子育て支援等企業数
- ◇女性(主婦)雇用率
- ◇働きたい女性の数をつかむ(ハローワーク、人材派遣業等で)
- ◇女性の就労者数(年代別)
- ◇仕事希望者のデータバンク
- ◇就労希望者数
- ◇子育て主婦のパート等、仕事の希望
- ◇キャリア教育の回数、参加数

6. 成果指標

①重点目標に対する成果指標について以下を提案する。

●産業振興分科会の検討で出された重点目標別の指標案は以下の通りとなっている

【重点課題⑤】中心市街地空洞化への対応

- ◇空き店舗利用希望者数
- ◇空き店舗にボランティア団体によるお休み処を設置する
- ◇公共交通の増便数
- ◇渋滞時間
- ◇中心部滞在者 各曜日毎の平均年齢
- ◇店舗所有者の街づくりの話し合い(主体性)
- ◇中心商店街への通行量の変化
- ◇駐車場台数
- ◇中心市街地にでるためのルート確保がされているか(シャトルバス等の活用)
- ◇中心部におけるイベントと直売品の充実を計る。PRも行なう(定期的に行なう)
- ◇郊外の大型店に集まる世代以外の世代を対象とした専門店(専門分野)の確立
- ◇イベント別に人出を調査
- ◇駐車場の効率的な利用法がされているか(共通利用券)
- ◇中心市街地への客の数の調査
- ◇「こうあったらよい」というニーズ意向調査(五感に訴える内容)食、聞、体験、見る
- ◇市街地で何かやりたいことがあるか(起業)の意向調査
- ◇中心市街地に魅力を感じる人の割合
- ◇中心市街地での消費額・割合
- ◇朝市希望者数の把握

6. 成果指標

②基本施策(案)に対する成果指標について以下を提案する。

目指す姿	指標案
地域産業の創造性を高める	・ビジネスモデル特許の出願数 ・学生ベンチャー起業数 ・産学連携による新事業創出数 ・産業分類別開廃業率 ・新規出店数 ・市内企業の求人数 ・差別商品の開発数
商業・サービス業振興	・中心市街地店舗の売上 ・新規店舗開業率 ・新商品の開発数 ・中心商店街への来所者数 ・廃店数 ・店舗利用度
工業の集積・高度化	・工業出荷額 ・就労希望者数 ・工業集積のため立地移転した工場数 ・市内企業の特許出願数
農林業の振興	・地産地消・自給率 ・若年者農業従事者率 ・契約栽培数 ・市内の水田面積 ・宇都宮の農産物の全国シェア ・市内の農業従事者数 ・農産物出荷量
観光業の振興	・都市好感度 ・県外からの動員数 ・PR大使の創設 ・大谷石等の地域資源活用度 ・観光客数 ・観光客の満足度

7. 市民の役割

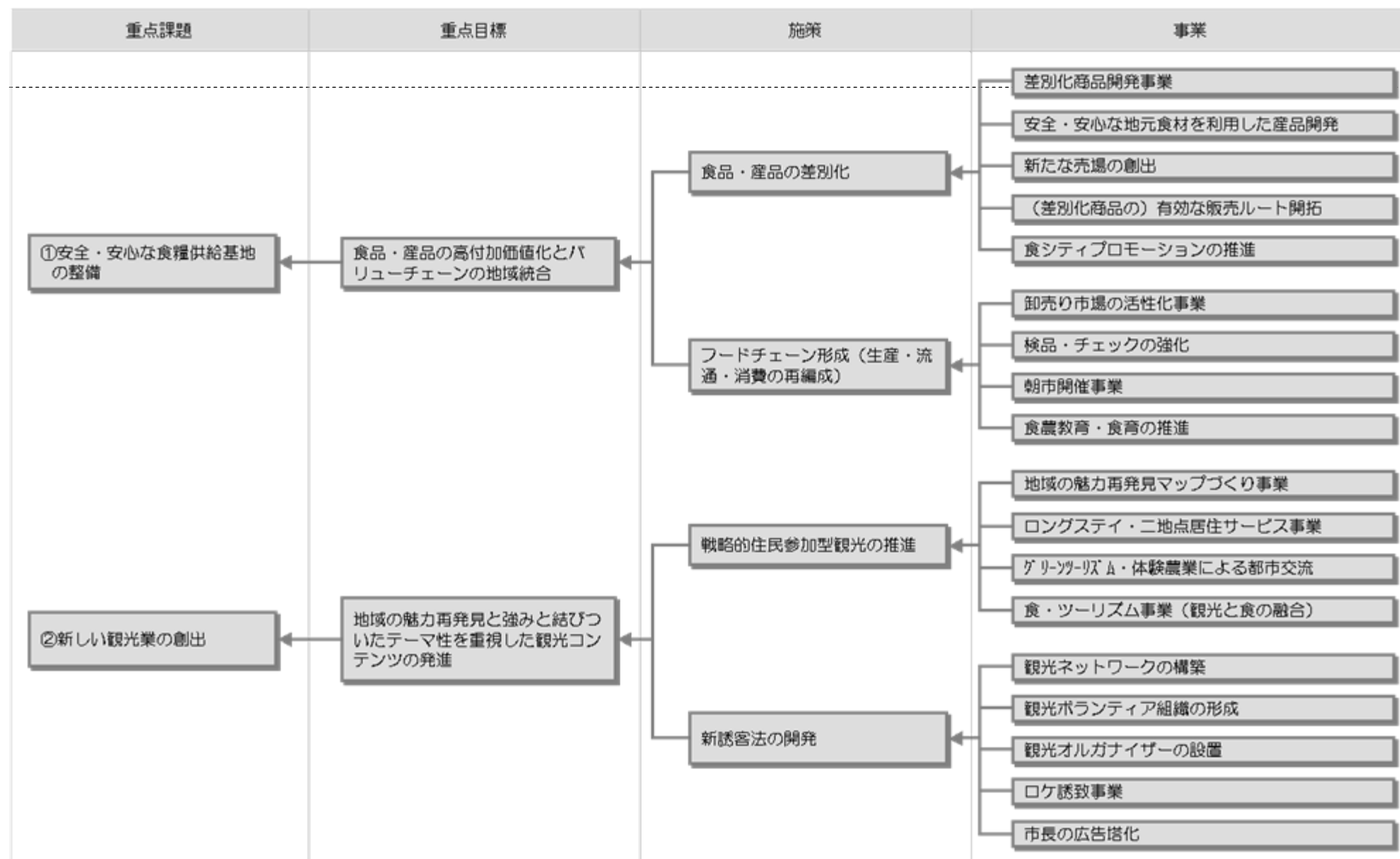
基本施策(案)における市民の役割について以下を提案する。

目指す姿	市民の役割
地域産業の創造性を高める	・宇都宮の産業に誇りを持つ ・市民自らが産業を守る(購買、利用) ・宇都宮のよさを市民レベルでも紹介する ・地域での購買の循環を図る ★相互扶助(事業者と市民)。事業者の努力も重要(市民に楽しんでもらう、気安く参加できる工夫)
商業・サービス業振興	・市民自らが産業を守る(購買、利用) ・事業者は、付加価値サービスを行う(お菓子やさんでお茶を出す等) ★相互扶助(事業者と市民)。事業者の努力も重要(市民に楽しんでもらう工夫、気安く参加できる工夫)
工業の集積・高度化	・オープンイベントに参加する(それによって市内製造業に関する理解を高める) ・レストラン等の廃油等のリサイクルを市民が主導する ※事業者は、市民が親しめるように施設等を開放する
農林業の振興	・花を植える感覚で庭先等で家庭菜園を楽しむ(近隣で競争させる) ・特に事業者はリサイクルシステムを構築し、事業者横断的に再利用する ・農家を中心として、市をあげて農業に触れてもらう(特に都会の人) ★相互扶助(事業者と市民)。事業者の努力も重要(市民に楽しんでもらう工夫、気安く参加できる工夫)
観光業の振興	・観光ボランティアを買って出る(地域に詳しい人) ・市民一人一人のおもてなし意識、行動をとる ★相互扶助(事業者と市民)。事業者の努力も重要(市民に楽しんでもらう工夫、気安く参加できる工夫)

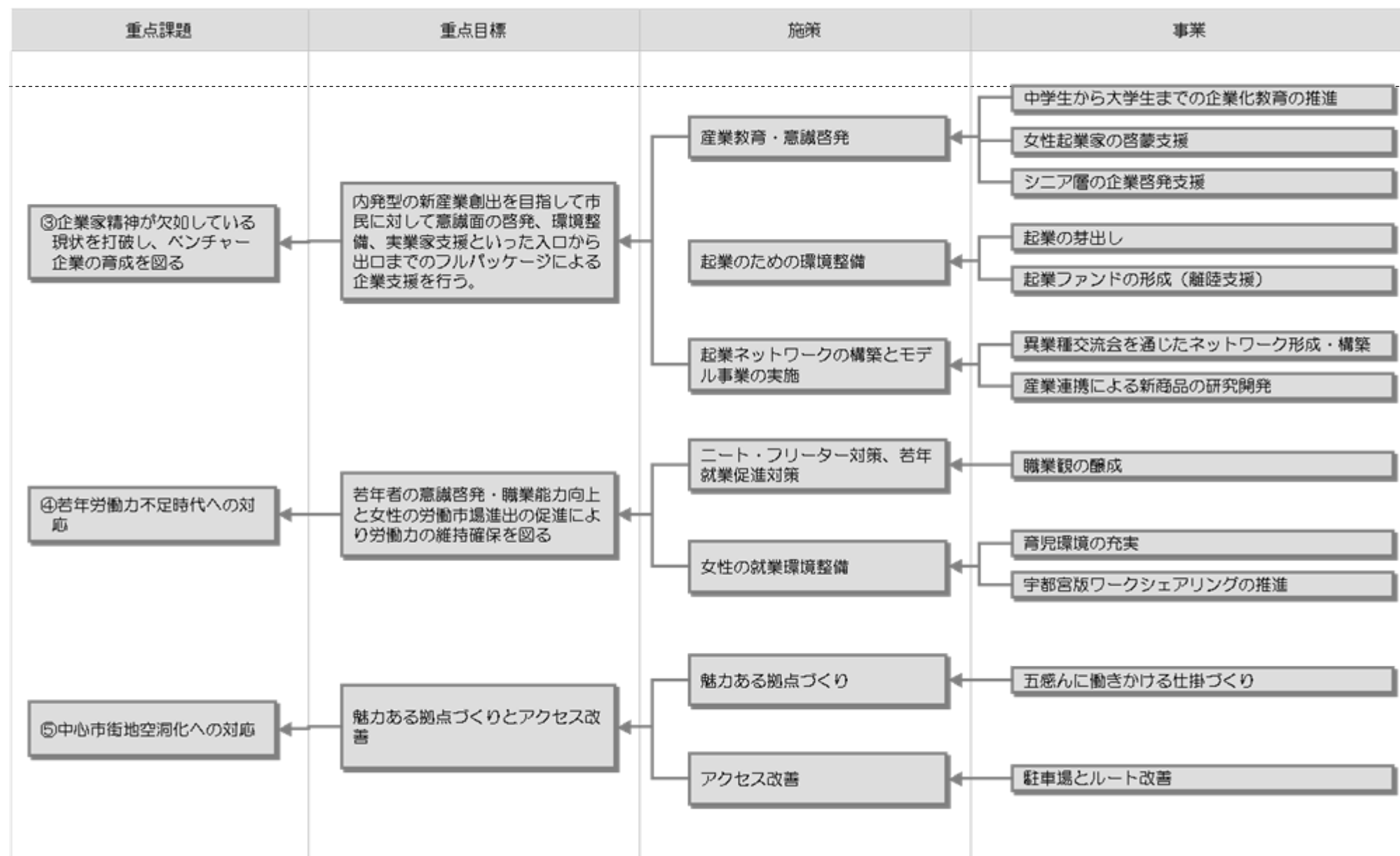
★:特に重視する役割

Ⅱ．生活環境整備分科会 施策体系・施策事業内容詳細

【施策体系】



【施策体系】



重点課題1. 安全・安心な食品供給基地の整備

重点目標：「食品・産品の高付加価値化とバリューチェーンの地域統合」

現在、食産業のビジネスプロセスが分断され、個別業者レベルで主に市外に対してビジネス展開している。これに対して、対外的には付加価値の高い差別化された商品の開発を推進し、地域における生産・流通・販売の一連のビジネスプロセスを最適化・効率化する。

施策①：「食品・産品の差別化」

安全・安心性を核として食品・産品の付加価値を高め、内外に販路を拡大する。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
差別化商品開発事業	・大学 ・企業 ・農業試験場 ・青年会議所・商工会議所	・差別化商品を開発し、全国に宇都宮ブランドとして発信する。 ・そのための検討を行う組織体を設置する	・差別化商品開発のための組織体を立上げる ・組織体に対して研究開発費の補助等を行う 例) 納豆餃子(身体によい納豆を宇都宮の名物である餃子に取り入れることで餃子ブランド力を高める)	市
安全・安心な地元食材を利用した産品開発(コンクール事業で実施)	・消費者グループ ・匠(地域の匠)	・安全・安心な産品開発を行う ・産品開発において地域内外の市民、消費者のアイデア・創意工夫を活用する	・市内外から安全・安心な地元食材を利用した産品アイデアを募集し、コンクールを実施する ・優秀作品は実際に作成、販売することとする。	市
新たな売り場の創出	・地元商店街 ・農業者 ・消費者	・開発された差別化商品の販路開拓を行う ・地域における販売拠点の構築と、都心での販売促進を行う	・空き店舗利用による地産地消 ・東京におけるアンテナショップ開発(アンテナショップを活用し、都心の出荷対象地域における市場ニーズ調査を行う) ・ネット販売	市
(差別化商品の)有効な販売ルートの開拓	・農業者 ・消費者	・消費者の安全・安心ニーズの高まりに対応して、生産者の顔が見える販売方法を構築する	・生産者の顔が見える販売方法(生産物トレーサビリティシステムの構築)	市
食シティプロモーションの推進	・地元商店街 ・農業者	・宇都宮の食品に関する「顔」を作り、宇都宮の食に関する外部発信を行う	・「宇都宮」の顔が見える販売方法: 宇都宮の食品に関する「顔」の創出 例) 有名人の活用: たてまつわへい氏	市

重点課題1. 安全・安心な食品供給基地の整備

重点目標：「食品・産品の高付加価値化とバリューチェーンの地域統合」

現在、食産業のビジネスプロセスが分断され、個別業者レベルで主に市外に対してビジネス展開している。これに対して、対外的には付加価値の高い差別化された商品の開発を推進し、地域における生産・流通・販売の一連のビジネスプロセスを最適化・効率化する。

施策②：「フードチェーン形成（生産・流通・消費の再編成）」

宇都宮市には一次産業基盤がフルラインで整備されている。これを活用し、地域内での各業者の強みを連結させたシステムを構築する。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
卸売り市場の活性化事業	・農漁業者 ・消費者	・卸売市場の機能を強化し、市内における生産・流通の連携を促進する ・市民に開かれた卸売市場を構築する	・生鮮食料品の品質保持・衛生の強化を図るため、コールドチェーン化を推進する ・ITを活用したセリシステムの導入 ・より市民に「開かれた市場」を目指して施設見学通路・設備などを設け、多くの市民の方々に見学にきてもらい、市場の機能・役割、さらには生鮮食料品への理解を深めてもらう	農漁業者 市
検品・チェックの強化	・農漁業者 ・卸売業者	・宇都宮の食品は安全・安心であるというブランドイメージを構築する	・市内に流通する食品の規格基準等の検査を行うとともに、健康食品と称した無承認無許可の医薬品成分を含む食品の流通防止を図るための監視指導を行う。 ・安全な食肉を流通するため、牛のBSEスクリーニング検査、腸管出血性大腸菌検査、残留動物用医薬品検査など食肉衛生検査の充実を図る。	市
朝市開催事業	・農業者 ・消費者	・地域流通を推進する	・朝市・産直等の生産流通に係る地域活動を推進するため、朝市・産直等の連携や広く府民への情報発信を推進するとともに、生産者と消費者との交流拡大等、朝市・産直等に係る各種取組を支援する ・地産地消の推進	市
食農教育・食育の推進	・市民	・食に関する安全・安心社会の確立	・生産・加工・流通の過程を理解するための啓発事業 ・食産業、食生活の安全・安心に関する情報発信	市

重点課題2. 新しい観光業の創出

重点目標：「地域の魅力再発見と強みと結びつけたテーマ性を重視した観光コンテンツの発進」

宇都宮市における地域観光資源は、市民ですら十分に把握していない現状である。市民の手で観光資源の魅力を再発見・再発掘し、それらの中の強みの部分を生かしたテーマ性を重視した観光コンテンツを作成し、外部発進する。

施策①：「戦略的住民参加型観光の推進」

地域の観光資源の魅力を市民(住民)自身が再発掘する場を設け、それらを活用した観光コンテンツを作成する。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
地域の魅力再発見マップづくり事業	・市民 ・市外観光客	・市民の知恵を活用して観光資源を発掘する	・地域資源を発掘し、マップ化を行う。その際に市民によるワークショップ、資源探索イベントを実施する。 ・発掘された資源は、宇都宮観光資源百選等の形でとりまとめる。	市 商工関係団体
ロングステイ・ニ地点居住サービス事業	・市民 ・市外観光客(特に団塊世代)	・団塊世代を中心とした地方又は地方都市へのロングステイ、ニ地点居住ニーズに対応し、市内滞在者の増加を図る	・ロングステイ・ニ地点居住サービスの検討 ・モデル事業の実施	市 商工関係団体
グリーンツーリズム・体験農業による都市交流	・商工団体 ・観光協会 ・農業者	・宇都宮市のもつ自然資源を活用した観光事業を推進する ・宇都宮市民が参加できる又は参加が不可欠な観光事業を推進する	・宇都宮市のもつ豊かな自然資源を活用した観光を推進する ・体験農業事業の実施	市 商工関係団体
食・ツーリズム事業(観光と食との合体)	・商工団体 ・観光協会 ・地元商店街	・餃子等の食に関する観光資源を活用した観光事業を推進する	・食を中核的資源とした観光を推進する。	市 商工関係団体

重点課題2. 新しい観光業の創出

重点目標：「地域の魅力再発見と強みと結びついたテーマ性を重視した観光コンテンツの発進」

宇都宮市における地域観光資源は、市民ですら十分に把握していない現状である。市民の手で観光資源の魅力を再発見・再発掘し、それらの中の強みの部分を生かしたテーマ性を重視した観光コンテンツを作成し、外部発進する。

施策②：「新誘客法の開発」

構築された観光コンテンツのよさを最大限に活かすために、観光客が「旅」を楽しむための基盤整備を行う。
また、外部に対して戦略的に観光拠点をPRしていく。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
観光ネットワークの構築	・地元商店街 ・観光業者	・観光客の観光拠点へのアクセスを改善し、より多くの観光拠点を訪ねてもらう	・観光拠点をネットワーク化する。バスや既存の公共交通に加えてLRTを導入し、観光拠点をスムーズに移動できるようにする	市 商工関係 団体
観光ボランティア組織の形成	・地元商店街 ・観光業者	・地元住民や学生の視点できめ細かな、かつホスピタリティ溢れる観光案内を行うことにより、観光客の拠点移動・拠点理解を向上させる	・大学生等を活用し、観光案内を行うボランティア組織を形成する。	市 商工関係 団体
観光オルガナイザーの設置	・観光業者	・観光アクセスを担う主体をとりまとめ、アクセス改善のための連携を促進する	・鉄道、道路、バス会社などを連携するオルガナイザーを設置する	市 商工関係 団体
ロケ誘致事業	・地元観光業者 ・映画産業	・宇都宮の豊かな自然や観光資源をメディアを活用してPRする	・映画等のロケ誘致を促進する。 ・フィルムコミッションの立上げ。	市 商工関係 団体
市長の広告塔化	・地元観光業者	・市長を市の観光の「顔」として活用する	・市長によるトップセールスの強化	市

重点課題3. 起業家精神が欠如している現状を打破し、ベンチャー企業の育成を図る

重点目標：「内発型の新産業創出を目指して市民に対して意識面の啓発、環境整備、実業化支援といった入り口から出口までのフルパッケージによる起業支援を行う」

宇都宮市では、従来から起業支援は行われてきたが、ターゲットや支援内容が限定的であるという問題点がみられた。このため、今後は意識啓発から実業化支援までのそれぞれの起業家の進捗段階に応じた支援が求められ、フルパッケージによる起業支援が求められる。

施策①：「産業教育・意識啓発」

サービス経済化を中心とした産業構造の転換を円滑に進めるため、新しい産業を興していく必要がある。内発型の新産業創出を目指すため、既存の産業政策のターゲット外であった若年・女性・高齢層に対して意識喚起を図る。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
中学生から大学生までの起業家教育の推進	・学生・生徒 ・先生 ・親	・若者が、自らリスクをとり、問題解決できる能力を身につけることにより、将来の起業家としての素養を得る	・経営者、エンジェルからの講演による意識喚起 ・中高大のそれぞれのレベルに合った模擬起業体験(中学ではケーススタディ、高校では夏休み・学園祭等を活用したビジネス経験、大学では大学発ベンチャーの推進)、インターンシップ	市 起業家
女性起業家の啓蒙支援	・市内女性	・女性の視点での社会活性化を図る ・女性がもっている潜在能力(感性、発想等)を活かす場の創造	・業種別(福祉・教育・飲食・家事サービス・建築設計)起業コンクール ・女性起業成功者からの講演 ・起業そのものについての知識・ノウハウ支援	市 起業家
シニア層の起業啓発支援	・シニア(40歳以上)	・スキル・ノウハウの社会的活用 ・高齢者の精神的自立・福祉コスト低減	・人材登録(DB)を作る ・若手起業希望者とのマッチングフォーラムの開催(若手企業希望者とのコラボレーションの推進)	市

重点課題3. 起業家精神が欠如している現状を打破し、ベンチャー企業の育成を図る

重点目標：「内発型の新産業創出を目指して市民に対して意識面の啓発、環境整備、実業化支援といった入り口から出口までのフルパッケージによる起業支援を行う」

宇都宮市では、従来から起業支援は行われてきたが、ターゲットや支援内容が限定的であるという問題点がみられた。このため、今後は意識啓発から実業化支援までのそれぞれの起業家の進捗段階に応じた支援が求められ、フルパッケージによる起業支援が求められる。

施策②：「起業のための環境整備」

宇都宮市では、起業のための相談窓口等が設置されているが、起業を考えている人材にとっての使い勝手が良くない等の問題が指摘されている。このため、起業アイデアを具現化していくための障害を取り除くために必要な支援を行う。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
起業の芽出し	・起業意欲のある人 ・起業をサポートする人	・経済成長の維持のために、ベンチャースピリットをもった起業家の創出 ・個人の自己実現、喜びの醸成	・起業コンテスト(エンジェルによるその場での支援決定) ・気軽に相談できる相談窓口の設置	市
起業ファンドの形成 (離陸支援)	・金融機関 ・エンジェル ・ベンチャーキャピタル ・大学・商工会	・起業希望者の経済支援 ・出資者の啓蒙、意識付け	・インキュベータの仕組み構築 ・起業に詳しい人を雇用し、行政が出資し、専門家が投資の可否を判断 ・起業のアーリーステージにある起業家に対するコンサルの充実(技術、経理などのチェック) ・起業家コンサルの設置(技術指導、管理指導、経理指導等)	市

重点課題3. 起業家精神が欠如している現状を打破し、ベンチャー企業の育成を図る

重点目標：「内発型の新産業創出を目指して市民に対して意識面の啓発、環境整備、実業化支援といった入り口から出口までのフルパッケージによる起業支援を行う」

宇都宮市では、従来から起業支援は行われてきたが、ターゲットや支援内容が限定的であるという問題点がみられた。このため、今後は意識啓発から実業化支援までのそれぞれの起業家の進捗段階に応じた支援が求められ、フルパッケージによる起業支援が求められる。

施策③：「起業ネットワークの構築とモデル事業の実施」

起業を行うためには事業パートナーが必要であるが、現在の宇都宮市では事業パートナーを獲得するための手段が不足している。このため、起業のためのネットワーク構築と具体的な連携構築を進める。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
異業種交流会を通じたネットワークの形成・構築	業界団体 各種事業者 起業家	・異業種交流によって生じたアイデアの実現化	・異業種交流で生まれたアイデアを支援する仕組み ・異業種交流のアイデア実現のための活動の不安解消	市 商工会・商工会議所
産学連携による新商品の研究開発	・各種研究機関 ・大学	・未来産業の創出 ・宇都宮ブランド(商品、農産物)の創出によりまちを活性化	・宇都宮市に立地する各大学の技術連携組織を統一的に請負う組織を立上げ、定例的に産官学連携会議を開催(起業と大学の技術を結びつける場の創造)。大学のもつ特許情報の開示等を同時に行う ・ビジネス可能性調査をベースとした連携可能性調査の実施と連携可能と判断された場合の口利き	市 大学

重点課題4. 若年労働力不足時代への対応

重点目標：「若年者の意識啓発・職業能力向上と女性の労働市場進出の促進により労働力の維持確保を図る」
若年労働力が総量として減少していく中で、若年者のフリーター・ニート化が進み、益々生産性の高い労働力が不足すると考えられる。このため、若年者の意識向上・能力向上が求められる。また、若年者だけでなく、女性の労働市場への進出も求められる。

施策①：「ニート・フリーター対策、若年就業促進対策」

ニート・フリーターに対して、意識喚起とともに、職業能力開発機会を提供する事により、若者が自身をもって就職活動、就業活動を進められるようにする。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
職業観の醸成	・ニート ・フリーター ・ニート、フリーターの親	・職業をもつことに対する喜びとプライドを醸成する	・ニートが参加しやすい研修・教育機会の設定（交流会から始まる等の工夫、eラーニングによる支援） ・職業体験の実施（社会人の活動を傍について体感するジョブ・シャドウイング、休み期間中を利用したジュニア・インターンシップの推進） ・親への啓蒙・指導（子供と一緒にジョブ・カウンセリングを受ける場の創出）（親の協力が不可欠であるため）	

重点課題4. 若年労働力不足時代への対応

重点目標：「若年者の意識啓発・職業能力向上と女性の労働市場進出の促進により労働力の維持確保を図る」
若年労働力が総量として減少していく中で、若年者のフリーター・ニート化が進み、益々生産性の高い労働力が不足すると考えられる。このため、若年者の意識向上・能力向上が求められる。また、若年者だけでなく、女性の労働市場への進出も求められる。

施策②：「女性の就業環境整備」

女性が働きやすい環境を整備する。特に問題と考えられる育児環境の整備、そして働き方そのものにワークライフバランスを確保するための施策に取り組む。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
育児環境の充実	・子供がいる女性労働者（特にシングルマザー） ・企業経営者 ・父親	・育児と仕事の両立	・保育園の充実（延長保育等） ・育児休業制度活用企業調査と優良企業の表彰制度 ・社内環境整備（託児所設置企業への補助金支給）	事業主 市
宇都宮版ワークシェアリングの推進	・市内就労者	・雇用機会の拡大 ・親が安心して働ける就業体制構築 ・ワークライフバランスの確保	・短時間正社員制度の認定と導入検討企業に対するノウハウ支援 ・割増賃金の引上げ（市内政労使合意）とノー残業企業表彰制度	事業主 市

重点課題5. 中心市街地空洞化への対応

重点目標：「魅力ある拠点づくりとアクセス改善」

中心市街地への人の流れが無くなって久しいが、郊外へ流出した人・消費の流れを再度中心市街地に取り戻し、まちの活性化につなげるために、魅力ある拠点づくりと、拠点へのアクセス改善に取り組む

施策①：「魅力ある拠点づくり」

中心市街地に市民や観光客を呼び込むためには、魅力ある拠点が必要である。特に、五感全体に働きかけることにより、トータルの満足度をあげていくことのできる拠点づくりを進める。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
五感に働きかける仕掛けづくり(魅力ある拠点づくり)	・市民 ・観光客	・文化とゆとりをキーコンセプトとした五感に訴えかけるまちづくり ・五感に訴えかけることにより、トータルの満足度を提供する	・商店等のみではなく五感を満たす拠点の集中化(文化とゆとりを感じられる空間整備、歴史・芸術を感じられる拠点、食通をうならせる拠点の一極集中化。歩きながら五感を満たせるコンパクトな中心市街地形成) ・魅力あるまちづくりを考えるワーキングの設置(五感それぞれにワーキングを設置し、統合ワーキングも設置)	・市 ・商店街 ・商工会議所

重点課題5. 中心市街地空洞化への対応

重点目標：「魅力ある拠点づくりとアクセス改善」

中心市街地への人の流れが無くなって久しいが、郊外へ流出した人・消費の流れを再度中心市街地に取り戻し、まちの活性化につなげるために、魅力ある拠点づくりと、拠点へのアクセス改善に取り組む

施策②：「アクセス改善」

中心市街地に市民や観光客を呼び込むためには、魅力ある拠点とともに、そこへのアクセスの利便性を高める必要がある。このためのアクセス改善を進める。

事業名	対象	目的	事業概要	事業主体
駐車場と拠点のルート改善	・市民 ・観光客	・中心市街地へのアクセス利便性の向上	・中心市街地周辺の駐車場の見直し(場所、料金) ・現行のバス路線・料金の見直し ・回遊性を高める:オシャレな散歩道・遊歩道を作る	

参考資料：産業振興分科会 重点課題・SWOT分析結果

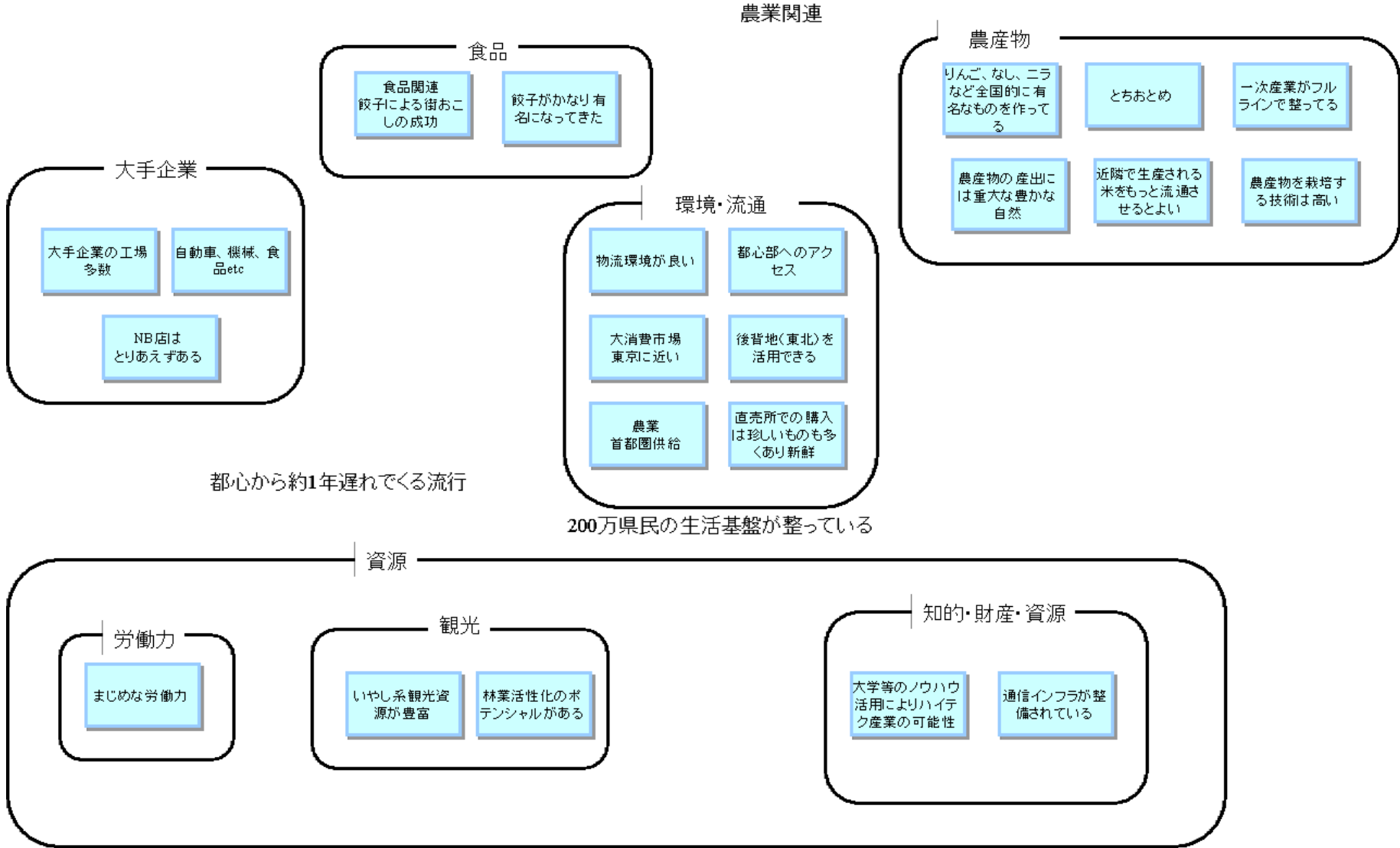
1. 産業振興分科会 重点課題

産業振興分科会は、重点課題を絞り込み、以下のようなテーマについて課題を設定した。

重点課題	背景・理由	やるべきこと
安全・安心な食品供給基地の整備	●健康食品ニーズの高まり、食の安全ニーズの高まり、外国産食品との競争の激化への対応(差別化)が必要になっている ●宇都宮市には一次産業基盤がフルラインで整っているため強みを生かせる	●食育の推進、学校給食の見直し(地元食材の活用、地産地消の推進)
新しい観光業の創出	●優良な観光資源を持っている(おいしい水、豊かな緑・自然、大谷石等)が活用されていない ●癒しが求められる社会においてそれらの資源を活用できる	●歴史文化資源の再評価、観光業者のPRの工夫 ●大谷石までのアクセス改善(東京からの直結等) ●大谷周辺の資源のシナジー活用(ロマンチック村、グリーンツーリズム、ハングラライダー等) ●道路・地域のネーミング改善
企業家精神が欠如している現状を打破し、ベンチャー企業の育成を図る	●既存産業が成熟化する中で、新しい宇都宮市を牽引するニュービジネスが期待されている ●現状では、産業教育が十分でないため企業家精神が市の若者に育っていない ●これらの現状を克服する必要がある	●産学連携事業の拡大 ●キャリア教育等の産業教育の充実 ●行政による起業家支援(インキュベーターとして)
若年労働力不足時代への対応	●少子高齢化、ニートの増加等により若年労働力が不足すると考えられるため、若年労働力を確保育成する必要がある	●外国人労働者の適切な活用 ●高齢者人材の活用 ●育児環境の整備 ●若者に魅力的な職場づくり
中心市街地空洞化への対応	●若者のスポット喪失や高い地価、駐車場不足や郊外への大規模商業施設の立地等により中心市街地が空洞化しているが、市民からの中心市街地活性化ニーズは強く、取組むべき	●医療施設・高齢者用マンションの誘致 ●魅力ある拠点づくり

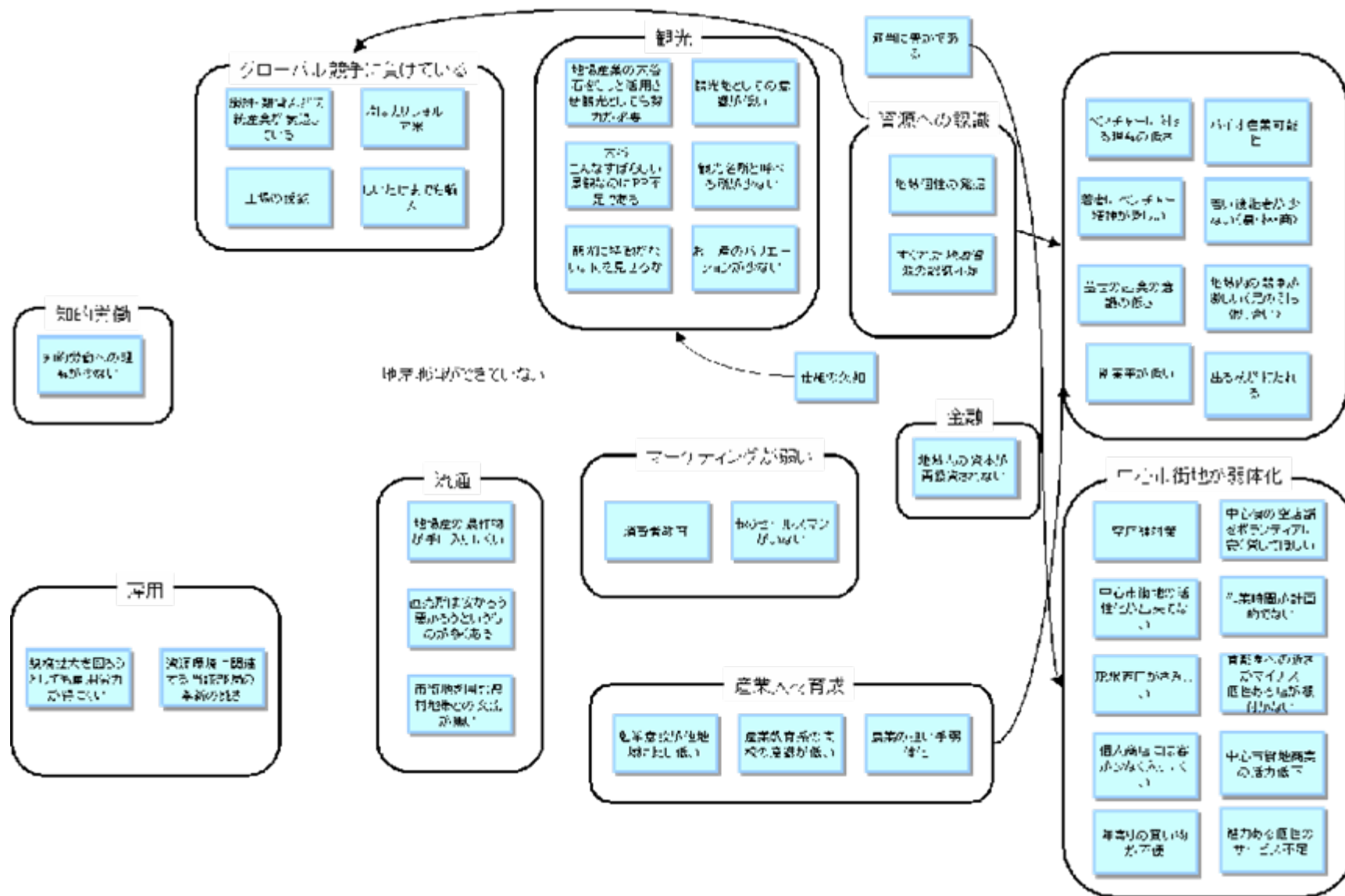
2. SWOT分析結果（1）SWOT分析 ①強み

産業振興分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「強み」は以下の通りである。



2. SWOT分析結果 (1)SWOT分析 ②弱み

産業振興分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「弱み」は以下の通りである。



2. SWOT分析結果（2）SWOT分析 強み・弱みの絞り込み結果（5つ程度）

産業振興分科会では、強み・弱みの中から、特に重要なものを5つ程度に絞り込んでいる。
絞り込まれた「強み・弱み」は以下の通りである。

強み

- ①一次産業がフルラインで整っている
- ②餃子がかかなり有名になってきた
- ③大消費地東京に近い
- ④いやし系観光資源が豊富
- ⑤大手企業の工場多数

弱み（問題）

- ①中心市街地が弱体化
 - ◆首都圏への近さがマイナス、個性ある店が根付かない
 - ◆年寄りの買い物が不便
- ②マーケティングが弱い
 - ◆情報発信力がない
 - ◆市のセールスマンがいない
- ③ベンチャーに対する理解の低さ
- ④産業教育系の意識が低い
- ⑤観光地としての意識が低い

2. SWOT分析結果 (3)SWOT分析 ③機会／④脅威

産業振興分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「機会」は以下の通りである。

機会

こだわり商品への需要増え (農、地場等差別化商品)

- ◇価値観の多様化
- ◇専業農家が多くなり、農産物も専門化
- ◇農産物の生産の向上
- ◇地場産品の振興
- ◇市の名物で街おこし
- ◇グリーンコンシューマーの増大
- ◇質的農業の発達(有機農法や特産物)
- ◇食の安全安心

アクセス改善

- ◇首都圏への接近
- ◇北関東自動車道開通で茨城、海外への接近
- ◇有料道路料金値下げ
- ◇都心へのアクセスがよくなる
- ◇都市部から大型店が店出される(消費拡大、流行にのる)
- ◇交通基盤や情報の伝達スピード加速化により質的な物へのこだわりが出てくる
- ◇交通網が整備され、高速道からのアクセスがよくなる
- ◇商業地の集約拡大
- ◇東京に近い(メリットとデメリットの併存)
- ◇陽南通りがJR線下を開通
- ◇やはりLRT構想

相対的資源価値向上 (資源見直し機会)

- ◇観光を“売り”にしよう
- ◇観光資源が豊か
- ◇自然環境が残っていることから、いやし的な観光が進むのではないかな

開発ポテンシャル

- ◇中心街もイメージチェンジしてよくなるかも
- ◇JR宇都宮駅東口の開発
- ◇環境にやさしい街づくりはすすめられる
- ◇二荒山神社前の開発
- ◇経済特区の申請UP

政治、経済

- ◇アジア経済共同体
- ◇足銀受皿銀行の登場
- ◇地方分権化
- ◇成熟社会の進展
- ◇国会誘致?
- ◇個人の資産隔離はよくなるのでは(貯蓄、財力がある)

未来産業

- ◇ユビキタス社会実現
- ◇ハイテク産業が多くなる

その他

- ◇許容度が高い、バリアーが低い
- ◇有識な若い世代のUターン⇄都内への流入
- ◇福祉関係の充実

教育・文化・スポーツの向上

- ◇文化の向上
- ◇音楽、芸術への理解度深まる
- ◇大学の法人化
- ◇栃木弁(個性)
- ◇教育が多様化して受験地獄もなくなるかも…
- ◇栃木SCの昇格

脅威

経済環境の変化

- ◇ディーゼル車規制
- ◇地価の下落
- ◇食生活の変化、外食が多くなる(農業生産物、流通への係わり)
- ◇欲望はあっても切迫したニーズがない

既存産業の停滞

- ◇中国・インドの発展(ロシアも)
- ◇外国からの安価商品(競争激化)
- ◇超大型店の中小小売業分野への進出
- ◇ストロー効果(いいところだけ吸いとられる)
- ◇物流の変化により倒産が増えていく
- ◇進出企業の撤退
- ◇資本流出(投資機会が少ない)
- ◇空店舗通りの増加
- ◇大企業の進出が減る
- ◇東京住民の草刈場
- ◇首都圏に生活圏が入ることにより地元産業が倒れる
- ◇若者の東京志向
- ◇ベンチャーが少ない(NEET?)
- ◇雇用吸収型産業の低迷(ハイテク化)
- ◇工業団地の企業撤退
- ◇コンピュータ関連産業の地位の低下(頭脳流出)
- ◇地域金融の足腰が弱い
- ◇地元の銀行のゆくえ
- ◇伝統的工芸品産業の衰退(グローバル化)

環境(自然)悪化、産業廃棄物

- ◇温暖化、環境破壊

市のアイデンティティの埋没状況

- ◇売り方が下手
- ◇宇都宮という知名度が低い
- ◇地域力をつけよう、強めよう
- ◇空港へのアクセス
- ◇個性のない街になっていくのでは

人口問題—高齢化・少子—

- ◇高齢者向け産業の未発達
- ◇少子・高齢化(労働力が減少)
- ◇道路網は整備されても高齢者の活動範囲が狭まる
- ◇交通網が発達することにより人口の流出
- ◇子育て支援にもっと充実を

労働力の減少

- ◇商店・農業etcの後継者不足
- ◇人口増(核家族化)による農地の減少
- ◇農業人口減少、就農者高齢化
- ◇中央集権化(知識人の一極集中)
- ◇ニート増加

政治・財政の悪化

- ◇消費税アップ・政治のツケ
- ◇国へ頼りすぎの農業、農業体質弱体
- ◇各種税金の値上げ

安全・治安の悪化

- ◇犯罪は多くなるかもしれない
- ◇外国人労働者の受入、体(態)勢強化が必要

2. SWOT分析結果 (4)SWOTクロス分析結果

産業振興分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「重点課題」は以下の通りである。

機会×強み

特産品

- ◇とちおとめのようなブランド農産物を他にもどんどん作り出す。全国から所望されるようにする
- ◇全国一のとちおとめでどこにも負けない加工品を開発、宇都宮の顔の一部となるように(馬路村のゆず加工品のようにこれに代る味がない)
- ◇一次産業がフルラインで整っているため、市民にも農業のよさを理解してもらい、地場ものを消費できるようにしなければ
- ◇宇都宮市の風土にあった農産物(品種)を開発し、加工産業を育成する
- ◇農産物の専門化→体験
- ◇農家の作物の専門化が必要(特色ある～さんちの～など)
- ◇産地のカムリをつけた産物を販売する方法で
- ◇特産の農産物を全国、アジア市場にまで広げる
- ◇価値観の多様化に対応できる農産物マーケティングをより検討すべき(宇都宮の食材を使う店)
- ◇新鮮農産物に専門性をもたせる(群馬とはちがうPR)
- ◇一次産業がフル。農産物が専門化することにより、消費拡大を図る販売網を作る
- ◇首都圏に近いメリット→地場産品の振興
- ◇Eコマース・システムを活用する(ヤフーとの提携もありうる)
- ◇特産品の直売所(アンテナショップ)をつくる
- ◇いちご特産物の様な、特筆する農産物の生産と農家への育成を考える
- ◇より安全で質の高い農生産物の安定供給
- ◇オリジナル農産物の研究・開発施設(農業ベンチャーの促進)

アクセス

- ◇北関東自動車道の開通で海が近くなるので、魚料理の食文化を高めていく

地元民

- ◇教育・文化・スポーツを向上させるには、地元民と大手企業等からの流入人口との協調理解が大切だ!

ぎょうざ

- ◇餃子で結ぶ全国ネットワークを進めていく(餃子家族など)
- ◇ぎょうざの街を持続するためにぎょうざ通りとかぎょうざタウンをつくらう
- ◇餃子に関連する産業の育成(材料を宇都宮市の様々な農家・小麦工場から調達)
- ◇宇都宮の特産物を市民が再認識し、地産地消をすすめる工夫

観光

- ◇大谷などの開発を進めるのはアクセスを工夫すべき
- ◇いやしの追求。本当のいやしを提供できる仕掛けを
- ◇いやし系観光地のPR・呼び込みを活発に行って存在を知らせる
- ◇豊かな観光資源を売りにする

企業

- ◇進出大企業の製品展示会を開く
- ◇大手企業の工場誘致は補助金が従来より出るとの事なので、チャンスではないか
- ◇工場誘致を熱心に。その周辺は人が増え、にぎやかになる
- ◇進出大手企業に地元雇用比率を(義務)指導する

再開発

- ◇宇都宮城の完成一人々の憩いの場所としよう
- ◇歴史のある街を強調した開発をする(宇都宮城址、百人一首)

教育

- ◇進出企業の幹部と地元経済人の定例的な交流会を開く

他

- ◇宇都宮市を活気がある市とよその人はとらえているという。ルイヴィトン級の店をひとつ誘致しよう

機会×弱み

教育

- ◇進出企業の幹部と地元経済人の定例的な交流会を開く
- ◇安全な食について学校教育と市民教育を徹底して行う
- ◇アクセスが良くなる。大都市への特産物へのアピール、コマーシャル
- ◇産業教育系の意識が低いのは未来産業の導入などで活性化出来るのでは
- ◇食の安全、安心を地域でもっと理解を深める
- ◇子供世代に経済や地球レベルの環境問題を教える
- ◇消費者教育の必要性
- ◇意識が低い所がかなりの弱み。資源は有るのでどうにか市民で話せる場を
- ◇新たな基幹産業を担う人材・若手企業家の育成に力を貸そう
- ◇宇都宮のポテンシャルを自信をもって説明できる教育
- ◇マニー、中西など世界的企業を市民が誇れるように教育する
- ◇小中高校等で、もっと宇都宮を勉強する機会をつくらなければならない
- ◇市民の教育、市民へのPRによる意識づけ

行政

- ◇地域経営のフロを育てる(首長は市の経営者)
- ◇企業家をささえる行政が大切
- ◇R&Dに、自治体はより多い予算を投入する

再開発

- ◇二荒山神社前に「お年寄り団地」を、周囲に専門店を誘致
- ◇中心市街地が弱体化しているので、アクセスを改善(LRT)するとともに地場商品等差別化された製品を扱う商店街へ
- ◇二荒山神社前の再開発
- ◇中心市街地弱体化、アクセス改善、産業開発、特産品等とからめて考えるかどうか
- ◇中心市街地へ大ベンチャー拠点を

地元民

- ◇まちづくりにリタイア高齢者のノウハウ活用策をつくる
- ◇元気印の年寄りをボランティアで活用しよう
- ◇人口ピラミッドを狭い地域単位でつくり、余剰労働力の所在を明示する
- ◇産地と需要側の交流をうながす
- ◇LOHASを支える自然を、東京に積極的に売り込む

企業

- ◇市中心部への車で用事を足す時、公的駐車場の整備を設置して欲しい。中心部に足が向かないのは駐車場の問題有
- ◇中心市街地に居住をうながす方策として計画されている二荒山神社周辺の建物づくりをすすめる
- ◇行ってみたいくなる大型店、有名店を中心市街地に誘致する
- ◇地域活性化に若者のリーダーを選び、支援する
- ◇進出大企業のディスプレイを行政がリードする
- ◇地元での雇用吸収型産業の創出(新たな基幹産業の創出)

観光

- ◇観光地・大谷・百穴等よく考えたら自分達も知らないことだらけ。資源発掘するのには、もっと知る事も必要
- ◇日光・鬼怒川・塩原・那須への通過点としてしか考えてない。市民も観光客も観光地と思うべき
- ◇大谷石文化をもっと前面に出した魅力ある商店街(統一性)の実現をめざすべき
- ◇いやし系観光地のPR・呼び込みを活発に行って存在を知らせる

デザイン

- ◇サービス産業の未来ビジョンをつくる

全体

- ◇将来の宇都宮を総合的に考えるには、たかが餃子からアピールできた市民を自負するべきだ

他

- ◇大学等の人材を生かし、ベンチャー企業を保護、育成していく

2. SWOT分析結果 (4)SWOTクロス分析結果

産業振興分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「重点課題」は以下の通りである。

強み×脅威

<経済環境>

- ◇ディーゼル車規制によりクリーンな空気きれいな観光地のPR
- ◇外食が増えることで餃子の消費量さらにUP
- ◇地価の下落→零細、地場産業チャンス
- ◇地価(農地)下落→非農家の新規参入

<既存産業の停滞>

- ◇国際価格競争の激化→高級品で勝負するチャンス
- ◇食生活の変化で外食が多くなるので農産物の生産向上につながる
- ◇食生活の変化、外食が多くなる中で一次産業の復興
- ◇伝統的工芸品のPRの強化
- ◇農業人口、就農高齢化を帰農や趣味農業で代替
- ◇東京都民の草刈り場にならないよう、グリーンツーリズム農村地域の癒しの場の提供
- ◇農業政策(栃木固有の政策)長野教育界ex
- ◇若者の都会思考が増える中で働く場所の確保(工場誘致)
- ◇東京の草刈場(地元力の再発見)
- ◇ベンチャー育成(失敗を許容する価値観)

<環境悪化>

- ◇自然環境が悪化する中で一次産業を生かすには環境整備が必要(施設、設備)
- ◇産廃(モットイナイ教育)

<人口・労働力>

- ◇労働力の減少、農業などに定年により元気な人生をムダにならないよう労働力を提供する
- ◇少子労働力減少→外国人労働者への援助支援(そうすると脅威が機会に)
- ◇後継者不足を地場商品の振興や市の街おこし等でおぎなう
- ◇労働力不足、後継者不足の中で一次産業を伸ばしていくには労働斡旋の場を設ける
- ◇人口問題→食育の普及で補う
- ◇子育て(核家族にプレーキ、二世帯に補助)
- ◇交通網(公共交通機関)
- ◇ニート対策の推進(家事を手伝う教育等)
- ◇高齢者が現役で働き続けられる産業都市
- ◇高齢者向け産業(身の丈技術)

<政治>

- ◇増税(負担と受益の透明化)

<安全・治安>

- ◇防犯、社会の監視機能の評価、いい意味の隣組
- ◇治安の悪化→地域力の増加
- ◇安全・治安の悪化をいやし系の職業(企業)で克服

2. SWOT分析結果 (4)SWOTクロス分析結果

産業振興分科会で検討されたSWOT分析で抽出された「重点課題」は以下の通りである。

弱み×脅威

<既存産業>

- ◇売り方下手ストロー効果 情報力、ふるさと創生の見直し
- ◇働くのは都心、住むのは宇都宮→よいところPR(交通網の発達→みんなでPR)
- ◇高齢者による高齢者のためのお店作り(買い物不便、産業未発達)

<アイデンティティ>

- ◇知名度を上げるためスーパー公務員の教育

<人口問題>

- ◇小学生へのキャリア教育

<Give up>

- ◇地価の下落を利用して工場誘致
- ◇温暖化(50年前のライフスタイルに戻れない)
- ◇大企業は宇都宮より中国
- ◇伝統産業(趣味の産業に転換)
- ◇東京の求心力(政治体制が変わらない)
- ◇安価商品の流入
- ◇人口流出(東京の経済が魅力)
- ◇農業人口の減少(額に汗しない人が多くなった)

まとめ

- ・安全・安心な食品供給基地の整備
- ・新しい観光業の創出
- ・企業家精神が欠如している現状を打破し、ベンチャー企業の育成を図る
- ・若年労働力不足時代への対応
- ・中心市街地空洞化への対応